

市民福祉常任委員会所事項調査報告書

期 日	令和8年5月14日(木)
訪問先	高知県高知市
出席者	奈良 直史 委員長 白川 美作江 副委員長 高田 昌慶 委員 山口 保子 委員 川口 仁 委員
随行者	見上副主幹
調査項目	高知くらしつな ^リ がるネット（Lico ^コ ネット）について
調査内容	社会資源情報収集提供事業として、令和2年1月から高知くらしつな^リがるネット、通称Lico ネットを運用している。医療・介護・障害・子育て等の施設やサービス、相談窓口、地域のボランティア団体等の生活支援情報を市民及び専門職等の支援者に一元的に情報提供できるサイトで、この構築により複合的課題を抱える方々への効果的な支援につなげること、また、地域にある資源を見える化することで、不足するサービスを創り出すといった地域課題解決に向けた取組の推進を目的としている。サイトの運営は業務委託し、プロポーザルで決定した。令和7年度、予算額は約720万円、掲載情報は約3,600件である。サイトビュー実績は約27万件で毎年増加している。Lico ネットの運用により、市民は地域の複数分野の生活支援情報を一元的に把握でき、地図上での表示が可能となった。事業者は必要な情報を確実に簡単に入手でき、情報の共有が迅速かつ容易になった。また、行政は事業者への多数の連絡事項に関し確実に迅速に伝達が可能となり、事務の効率化、経費の削減につながり、本市の施策の参考になるものであった。
主な質疑	Q 基本情報が入っているため、拡張し汎用性があるのではないか。 A 拡張性はあるが、予算の都合で実現できていない。 Q 情報は自動的に収集しているのか。 A 手入力である。委託業者の情報センターでデータベース化し、管理している。 Q システムで改善したところはあるか。 A 改善点（要望）は適宜委託業者に伝え、対応可能なものはその都度改善、対応している。例えば、不登校支援の資源の情報発信として、既存の子育てや福祉の情報に加えて、不登校支援の相談機関や学びの場の情報を追加し、高知市立学校保護者連絡システムへLico

ネットのチャンネルを追加した。また、新しくできる子供食堂やサロンなどの情報を、一般公開しているデータベースとは別のデータベースで委託業者が用意して進捗状況を記録し管理している。四半期に1回程度、その中で公開できるようになったものを移して一般公開し資源が増えていく。

Q 民生委員は活用しているか。

A 町内会も含めて地域活動への携わりの深い方は使用している。民生委員連絡協議会の方からも、使いやすく分かりやすいため、もっと周知をしていくべきだという意見があった。

Q 周知方法は。

A 転入手続きの時に渡す資料に二次元コードを貼る。また、広報紙には二、三か月に1回二次元コードを貼り、社会資源情報が広報紙にある、探すことができるというイメージを繰り返すことで周知が進むと考える。

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和 8 年 5 月 15 日(金)
訪問先	高知県高知市
出席者	奈良 直史 委員長 白川 美作江 副委員長 高田 昌慶 委員 山口 保子 委員 川口 仁 委員
随行者	見上副主幹
調査項目	子育て短期支援事業 ショートステイ、トワイライトステイについて
調査内容	高知市はショートステイを施設等と委託契約している。ゼロ歳から 2 歳までは 1 か所、2 歳から 18 歳までは 6 か所、母子での緊急ショートステイは 1 か所で、小学生以上の身辺自立している子供を里親が預かる施設も 1 か所契約している。飛び込み出産の時など緊急の時は、ゼロ歳児からの受入れはとてもありがたいとのことであった。なお、保護者が入院等で監護者が不在になる場合は、子供の安全が担保できないため、これは一時保護の要件に当たらないかと、高知県の児童相談所に一時保護を相談することがある。また、子供が病気になるとショートステイは終了だが、一時保護は行政処分になり、一時保護中は子供の具合が悪くなくても行政処分として受診の指示ができ、施設が受診に連れていけるという施設側の安心もあるため、保護者が長期入院の場合は、最初はショートステイで預かっても受診が必要になった時点で一時保護に切り替えてもらうことで子供の安全、健康、保護者の健康に対する児童福祉の観点から児童相談所にも協力をいただいているのが高知県内の実情であるとのことで、高知市はショートステイと児童相談所の一時保護の間の支援をきちんと行っていて素晴らしい、児童相談所との関係性もよいと感じた。 トワイライトステイも委託契約しているが平成 26 年度から実績がない。保護者が施設まで子供を連れて行って、残業に戻り、また迎えに行く手間が日常生活に組み込めなくなっており、それを補完する小学校 1 年生から 6 年生まで受け入れ可能になった放課後児童クラブや放課後デイサービスなどが増えてきたことが理由で、利用拡大より事業の必要性について見直していくとのことで、子育て・教育で選ばれるまちを目指す本市にとって大変参考となるものであった。

主な質疑	Q ショートステイでレスパイトが目的ということもあるか。 A 見極めが難しいがレスパイトもある。 Q 高知市子育て短期支援事業実施要綱第4条第5項で「養育環境等に課題があり、児童自身が一時的に保護者と離れることを希望する場合」が令和6年に追加されたとのことだが、実績はあるか。 A ない。児童から保護者と離れたいというものはあるかもしれないが、それがショートステイの理由になったことはない。 Q 第5条の利用期間について、1か月を超えない範囲となっているが、平均の利用期間は。 A 3日か4日である。お母さんが産後入院が長くなった1か月が最長である。長くても3泊4日ぐらいでないと施設も難しい。 Q 子ども家庭支援センター職員のスキルや経験値が大事だと感じるが、体制は。 A 職員体制については、社会福祉士、保健師が配属されている。他部署でケースワーカーをしていますが、独特の考え方があるため5年以上の在籍を人事課に依頼している。
-------------	---